

令和4年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	もりびとNOA
事 業 名 称	風土再生と風土から得られる学びを子どもたちと共有する
補 助 金 額	200,000円
現 場 確 認 日	令和4年7月14日(木)
開 催 場 所	二宮第一農園付近
出 席 委 員	山岡委員



事業の概要

- ・現在行っている山林整備事業において更なる専門技能を身につけ、仲間を増やす。
- ・釣り教室においても充実化を図り、福祉枠を創り広く参加者を募集し、子どもたちの野外活動の質を上げる。
- ・町内各団体と協働して連携を図る。(特にエコフェスタ二宮特別イベントの「山海郷～循環する私たち」に参画する。)



現場確認の内容

山林整備の活動現場を確認。

今年度から社会人になったメンバーもおり、平日である今回は、メンバー2名と「農ある暮らしを広める会」の2名での作業に同行した。

竹の成長が早く、整備の速度を緩めるとすぐに押し戻されてしまうとのこと。

出席委員のコメント

これまで主に竹の伐採による森林の環境保全を進めてきたとのこと。周囲の手入れされていないエリアと比較することにより活動が進んでいることが確認できました。

活動拠点近くで活動している「農ある暮らしを広める会」をはじめ関係団体とも連携し、助言を得て活動しています。自然環境の保全という活動の性質に加え、若い方たちの活動ということもあり、地域との連携は不可欠であり、その点において着実に関係づくりをして安定的な活動を進めていることが伺えました。

また大学生中心の活動ということで卒業後にどうなるかとの懸念がありましたが、平日の活動に加え今後は週末にも活動日を設けて社会人も参加できる体制を整えていくとのこと。

さらに最近では近隣の中学生が関心をもって参加しているとのこと。地域への理解促進や活動の輪を広げていくこと、さらには将来の担い手育成の観点からも良い事だと感じました。

全体として、スタートしてまだ数年ですが、地域とつながり、成果もあげつつ、新たな方向性も探っておられて、着実に活動を充実させていると感じました。

令和4年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	みんなの一色子ども食堂
事業名称	「子ども食堂」「0円ショップ」「クリスマス事業」「夏休み弁当配布」 「食料支援者への配布」の開催
補助金額	200,000円
現場確認日時	令和4年6月24日（金）
開催場所	百合が丘児童館
出席委員	事務局にて確認



事業の概要

【子ども食堂】

- ・地域の方々どなたでも参加できる食堂。子どもたちには無料、大人には100円で提供し、生活困窮者への援助を継続。



現場確認の内容

会場では、100食が用意され、18時頃に会場に着いた際には、40人以上が食事をしていた。

運営にあたっては、スタッフに栄養士が参加しており、食品衛生の管理が行われていた。

事務局のコメント

- ・この活動について来場者は、回覧や掲示板、過去に参加した世帯の口コミ等で知ったようです。今回は、開催地である百合が丘3丁目以外の方の来場が多く、特に掲示板にチラシの掲示をした一色、緑が丘の方が増加したとのことでした。
- ・入口には、手指用の消毒液が置いてあり、座席も対面にならないように配置、換気をするなど感染症対策を徹底して行っていました。
- ・親子連れだけでなく、高齢の方なども来場されていました。
(団体に確認した最終的な来場者：大人43人、子ども33人)
- ・今回は、コロナ禍のため、ゲームや勉強会(宿題)などの開催はありませんでしたが、開催できた際には、より多くの親子が参加するのではないかと印象を受ける雰囲気でした。
- ・全体的に地域に受け入れられているようでした。スタッフの役割分担がしっかりできており、声掛けをして、来場者が気楽に来られる雰囲気づくりができていたと感じました。
- ・会場に募金箱等が置いていなかったことから、スタッフに確認したところ、募金箱を準備する予定だったが今回忘れてしまっていたとのことでした。
- ・アンケート等を来場者にとっていなかったため、今後開催する際にはアンケートをとることで満足度や課題の確認につながるため、可能な限りアンケートを取った方がいい旨をアドバイスしました。

令和4年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	みんなの一色こども食堂
事業名称	「子ども食堂」「0円ショップ」「クリスマス事業」「夏休み弁当配布」 「食料支援者への配布」の開催
補助金額	200,000円
現場確認日	令和4年8月12日（金）
開催場所	百合が丘児童館
出席委員	馬場委員



事業の概要

【食料支援者への配布】

- ・フードバンク、報徳食品支援センターなどから提供された食品を配布する。
(現場確認当日は「フードバンクかながわ小田原センター」から提供された)



現場確認の内容

今回は「食料支援者への配布」の活動現場を行った。社会福祉協議会や民生委員からの依頼や会員同士の情報交換により支援者の登録を行い、この日は12世帯へ食品の配布をした。

子どものいる世帯にはお菓子を、高齢者のいる世帯にはレトルト食品を多めに入れるなど、世帯ごとに内容物は異なっている。

最近ではボランティア団体が増え、フードバンクの品物が減ってきていることが課題とのこと。

出席委員のコメント

1. 感想

- (1) 皆様の使命感溢れる、イキイキとした活動ぶりに、大変感動しました。
- (2) 特に、活動全体に漂う母性愛に満ちた「優しさ」「ぬくもり感」ある雰囲気印象的です。
- (3) いろいろな支援策の模索が続く中、好事例も徐々に蓄積されてきて、スタッフの更なるモラル高揚に繋がっているように感じられます。

2. 期待&懸念

- (1) 行政では手の届かないこのようなセーフティネット活動はますます重要となるでしょう。地域の底辺を支える活動として継続発展できるように期待します。
- (2) スタートして3年を迎え、継続できる組織基盤づくりが必要です。後継人材確保、財政基盤の確立等、早急にかねての課題を克服して、今後も地域に欠くことのできない存在として、一層成長されることを祈っています。

令和4年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	二宮町手話サークル カナリヤの会
事 業 名 称	手話で話そう、みんなの情報
補 助 金 額	200,000円
現 場 確 認 日	令和4年8月23日(火)
開 催 場 所	町民センター 3Bクラブ室
出 席 委 員	志賀委員



事業の概要

聴覚障害への理解促進を図るイベントを企画し、聴覚障害者及および手話通訳と共にイベントPR用の手話付き動画を制作して、団体自らが情報共有の公平性を具えた「みんなの情報」として発信、公開する。



現場確認の内容

今回の「夏休み手話体験」では、小学生8名、中学生1名、大人2名が参加され、湘南ケーブルテレビの取材も入っていた。

参加者に参加動機を訊いたところ「ひとつの言語として手話を1年前から学んでおり、当サークルのイベントに参加している」「小学校の授業で手話を学び、興味を持った」等が挙げられた。

出席委員のコメント

8月23日(火)に開催された、「夏休み手話体験」を見学させていただきました。

夏休みということもあり、子どもの参加者が大半を占めていたが、特に学校を通して周知されたわけでもなく、子どもを対象にした体験講座でもなく、一般向けの講座として企画をされたということでした。

内容は、耳の不自由な方からのお話(手話)や、手話を使わずに表現してみよう、など、初めて手話に触れる参加者が、興味を持つことのできる内容であり、子ども達も、耳の聞こえない方に物事をどう伝えるのか、真剣に考えて表現していました。

残念ながら、今回の補助金活用の目的であった、PCを活用した手話付き動画や、ダイアログインザサイレントについて確認をすることはできませんでしたが、今回の研修会の開催により、手話を理解しようとする町民の裾野が広がっており、二宮町手話サークル カナリヤの会様の活動が、聴覚障害者の方々のもどかしさを解消するための一助になっていることが確認できました。

令和4年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団体名	人生わくわく船
事業名称	寺子屋の開催
補助金額	200,000円
現場確認日	令和4年9月13日(火)
開催場所	生涯学習センター ラディアン
出席委員	大河原委員



事業の概要

- ・町民公開講座
(いきいきフェスティバル in 二宮) : 年1回
第一部 講演会 帝京大学駅伝競走部監督中野孝行氏
第二部 演奏会 二宮ジョイフル・ハーモニカ、大正琴「いなほ」
- ・寺子屋
(健康講座、ゼンシン体操、ボッチャ体験、災害研修等) : 年11回



現場確認の内容

11名の参加者による、健康講座、ゼンシン体操、ボッチャ体験を行った。
肩を動かす仕組みを講座で学び、身体を動かし、実際にボッチャを行うことにより、無理なく効率よく運動ができているようだった。
なお、12月3日に町で行われるボッチャ大会にも参加予定であり、参加者全員が楽しみにしているのが印象的だった。

出席委員のコメント

今回参加させていただき、まず感じたことは参加者の方々が楽しそうに取り組んでいるということです。

50肩についての講義の際は和気あいあいと楽しく、また、ためになるものが行われていました。その後「二宮、永遠に」の曲に合わせての体操を行うなど、多岐にわたる活動だと確認いたしました。

ですが、参加人数が20名弱と若干少なかった事、また、参加者が女性ばかりでしたので今後はこの活動を多くの方に広めて頂ければと思います。

今後も活発な活動を期待しています。

令和4年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団体名	農ある暮らしを広める会
事業名称	次世代に受け継ぐ次期リーダーの育成
補助金額	200,000円
現場確認日	令和4年9月15日(木)
開催場所	二宮第1農園
出席委員	小林委員



事業の概要

NPOの活動に理解と協力が得られるようになり、農を核として、人々が多くの仲間たちと多面的、継続的な活動を行う新たな地域づくりや地域住民と積極的な繋がりを創ることが実現しつつある。これらの事業を継続し、次世代に受け継ぐために更なる次期リーダーを育成する。次期リーダーは3年計画で育成する。



現場確認の内容

当日は山林整備の現場確認を行った。チェーンソーによる竹の伐採を行い、効率よく作業を進めているが、竹の成長速度も速く、作業の手を緩めるとすぐに竹林化してしまうとのこと。

出席委員のコメント

- ・毎週木曜日を定例日として山林整備を次期リーダー研修に参加された方々と一緒に行っている。特に参加者は20代前半と次期リーダーに相応しい層であり、有償ボランティアとして活動しているので、資金がある中では継続性は期待できる。
- ・当日は二見代表から地形の歴史や災害対策、危機管理、二宮町の山林の現状と課題を丁寧にわかりやすく説明をいただいた。ここで関わる方々は、十分に理解した上で活動しているということを実感できた。
- ・今後の課題は、資金面と土地所有者や町民の理解であるとのこと。現在は、助成金や基金の支援があることで人件費を支払うことができているが、次年度以降は大きな課題となる。その課題の対策として、竹を炭に変えて販売することや薪の販売など販売収入にもチャレンジしている。しかしながら、機材の購入費用を捻出できず、生産性の高い販売スキームはできていない。この課題に向けての取り組みが急務となる。

また、土地所有者の理解については成功モデルの実績を作り横展開していくことが重要となる。合わせて、これまでも実施しているイベントなどの開催により町民の理解を増やしていき、災害対策や山林整備の必要性を広報していくことが重要となる。自走できる仕組みを期待している。

令和4年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	にのみやこども食堂便・みんなのとまり木
事 業 名 称	朝ごはんキャンペーン
補 助 金 額	193,200円
現 場 確 認 日	令和4年9月26日(月)
開 催 場 所	山西小学校
出 席 委 員	手塚委員



事業の概要

収まる様子の無いコロナ禍の影響もあり、生活困窮者が増えていることが2021年のフードパントリー利用者の増加にも表れている。今年度もこの事業は継続したい。

又、朝食を食わずに登校する児童生徒がいる現実を知り、子ども食堂便として朝ごはん(おにぎり)を各学校に届ける企画を実現する。



現場確認の内容

当日は児童生徒24名が朝食を食べに訪れた。利用者は必ずしも生活困窮者だけでなく、両親が共働きで早朝から出勤してしまう家庭なども申し込みできるものであった。

提供するお弁当は町内の弁当屋に予め注文しており、7時30分に会員が受け取りに行き、学校にとどけている。

出席委員のコメント

朝食を食べることのできない児童だけではなく、申込制で30名ほどが昇降口の近くの教室に集まり、楽しそうにおにぎりをほおぼる光景は大変ほほえましく思いましたが、兄弟や姉妹での参加者もいる現状は、民間の善意での活動とは言え、少しつらいものもありました。

しかしながら、協力している市民の皆さんは笑顔で対応し、子どもたちへの配慮も忘れず話しかけ方等の気遣いが感じられました。

学校の教室での取組を受け入れている学校側の配慮にも感謝します。

社会的な課題に取り組む小さな動きから、公的な政策に近づくこともできるようになりました。

今回も同様でしたが、活動を支える市民側の参加者の減少は如何ともしがたく、今後、市民活動やボランティアの育成推進が望まれていると感じました。

令和4年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団体名	あそびの庭
事業名称	はらっぱベース
補助金額	200,000円
現場確認日	令和4年9月28日(水)
開催場所	みらいはらっぱ
出席委員	高見委員



事業の概要

学校に行っている子も、行かない・行けない子も、気楽に立ち寄り安心できる場所を町内につくります。家庭でも学校でもないもう一つの安心できる居場所づくりを通じて、地域の大人の意識変革も目指し、子育て環境をより良く優しいものにします。



現場確認の内容

この日は11時の時点で未就学児とその母親3組が訪れており、累計では12人が利用されたとのこと。

「はらっぱベース」は母親世代の口コミで広く伝わり、利用者は町民だけでなく、近隣の市町からも多く訪れている。半面、町内のシニア世代にはまだまだ浸透しておらず、情報発信に力をいれていきたいとのことであった。

出席委員のコメント

従来の社会通念では、本団体の活動目的は行政が取り組むべきものと考えられるが、そういった垣根にこだわらずに取り組んでいる姿に共感を覚える。

何でもかんでも行政に頼るのではなく、自分たちの町は自分たちの手で作っていくという、まさにこれからの新しい町づくりのお手本ともいえる。

活動がスタートし、半年が過ぎ、当初の狙いとは異なった動きが生まれているようだが、試行錯誤を繰り返しながら一歩ずつ前に進めていってほしい。

3年後を楽しみにしています。

令和4年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	あそびの庭
事 業 名 称	はらっぱベース
補 助 金 額	200,000円
現 場 確 認 日	令和4年9月30日(金)
開 催 場 所	みらいはらっぱ
出 席 委 員	豊田委員



事業の概要

学校に行っている子ども、行かない・行けない子ども、気楽に立ち寄り安心できる場所を町内につくります。家庭でも学校でもないもう一つの安心できる居場所づくりを通じて、地域の大人の意識変革も目指し、子育て環境をより良く優しいものにします。

現場確認の内容

現場確認中に3組の利用があった。2組は子ども連れで訪れ、残る1組は保護者だけであったが、全員が顔見知りのように、良いコミュニケーションの場にもなっていた。

また、「はらっぱベース」をSNSで知って訪れる町外の人も多くいるとのこと。

ボランティアで昔遊びを教えてくれる地域の方も多く、多様な人たちが繋がっている。

昼時は味噌汁を作っており、今回は参加している子どもと一緒に調理をしていた。



出席委員のコメント

- ・「誰でもどうぞ」という考えで開設している「はらっぱベース」のウッドデッキが「大きな縁台」のように見えました。幅広い世代にとってサード・プレイスの役割を持つ、とても意義がある活動だと思います。
- ・不登校の児童・生徒が約60人いるうち、町の「教育支援室やまびこ」に通っているお子さんは10人くらいだそうです。フリースクールという選択肢もありますが、約50人の学校に行けない、行きづらい子たちがどこでどのように過ごしているのか気になりました。また、そのような児童・生徒が安心して居られる場所や、保護者が悩みを話して頼れる場が必要であることが分かりました。教育委員会、学校、子どものサポートに関わる団体などと連携して、ニーズを汲んだ居場所ができるよう願います。不登校に対する周囲の理解を高めていくことも重要だと感じました。
- ・ボランティアや「はらっぱベース」の趣旨に賛同する人たちと手を携えて活動していることは頼もしいです。多くの方々をつながりを築いている様子が伺えました。
- ・近隣の大磯や茅ヶ崎、藤沢、都内から訪れる人や居場所づくりを目指して見学に来る人がいるとのこと。保護者が支援者になるなど、一口千円/年の個人サポーターが約120人いることもSNSによる情報発信が効いているようです。団体の活動に関心のある世代がよく利用する情報収集ツールと合致しているので、これからもこまめな発信を続けてほしいと思います。

令和4年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	にのみや子ども応援隊
事 業 名 称	発達サポーター育成講座・基礎講座 inにのみや
補 助 金 額	200,000円
現 場 確 認 日	令和4年10月7日(金)
開 催 場 所	町民センター
出 席 委 員	米田委員



事業の概要

【企画の目的】

近年、家庭や保育、教育の場で子ども達の発達をめぐる課題が多く存在している。そこで子どもの発達の特性やサポートの方法を学び、町内に子どもの理解者や支援者の輪を広げ、スキルを活かすサポーターを育成することを目的とする。



現場確認の内容

今回は講座の最後のコースとなり、56人が参加されていた。この講座は途中からでも参加が可能であり、口コミで広がり参加者が増えているとのこと。

参加者の中には当団体の事業に感銘を受け、東京都から来ている人もいた。

出席委員のコメント

参加は二宮の方だけでなく、茅ヶ崎や藤沢、また都内からの参加もあり、二宮町が元気になっていくとともに近隣町外へもその波が広がっていく可能性を感じた。

星山先生の講義は具体的で分かりやすく、参加者同士がつながりを持っていけるようなワークもあり、参加者の方々も熱心に取り組んでいるのがよく分かった。

2019年の最初から参加されているという方のお話では、最初は講座で泣いているお母さんも多かったが少しずつ変化していくのが見られたとのこと。参加人数も増えているという。

保育士さんや学校の先生の参加もあるとのこと、今後、教育現場にもどんどん広まっていくことを期待する。

活動を続けていくための資金として今後は県からの助成金とあったが、安定して続けていただきたいと思いますので、やはり参加者の負担が少ないままで確実な資金繰りがあると良いと思う。